

## 3月12日(土)第5回「ほっと・ぼらんていあ」の報告

テーマは「**ポレポレ・ミニコンサート**」今回は、ポレポレの会のみなさんをお招きしました。**ポレポレとは**・アフリカ語でのんびり、ゆっくりという意味です。**代表の和泉昌江さん**（オカリナとハーブ）、**小林武光さん**（オカリナとタンバリン他）、**高地悦子さん**（オカリナ）、**原野洋さん**（ギター）の4人で、童謡、唱歌、アニメ、フォークソングなど福祉施設等で**演奏ボランティア**として活動しています。

**1部**では、参加者のみなさんに**歌詞カード**が配られ、4人で「コンドルは飛んで行く」の演奏をした後で、**活動の紹介**と4人に**自己紹介**をしていただきました。それから「うれしいひな祭り」「春よ来い」「春の小川」「春が来た」と**春の歌が続き、演奏に合わせてながらみなさんが歌い出して**、歌声喫茶のような雰囲気になりました。最初は、演奏者も参加者も緊張していましたが、**演奏ごとにみなさんの表情が生き生きしてきて楽しくうでした。**

**2部**は、**和泉さん**が「**ヘルマンハーフ**」は、ドイツ・バイエルン州の農場主、ヘルマン・フェー氏によって**ダウン症の息子のために開発されたドイツ製ハンドメイドの弦楽器**だと説明してから「花は咲く」「見上げてごらん夜の星よ」などを演奏してくださいました。また**原野さん**は**演奏者それぞれに役割**があって、ギターは、オカリナの演奏だけだと息継ぎが大変なので呼吸を整えるための役割があると話した後で「翼をください」「風」「365日の紙飛行機」などを演奏(合間に**小林さんのタンバリン**伴奏も入って)してくださいました。そして呼吸を整えた4人の「かあさんの歌」「四季の歌」などの演奏に合わせて最後までみんなで楽しく歌って過ごしました。その中の「**かあさんの歌**」の歌詞の、**あかぎれに生味噌をすりこむ**に触れて、**昔は角質化した所に味噌を擦り込んで包帯で巻いたりした**と話す、会場から「やったことがある」と声が上がったり、始終、和やかな雰囲気でした。最後に、**小林さん**から、**オカリナの音の出し方**の簡単な説明もありました。

**参加者から**～みんなと一緒に**歌えて楽しかった**。オカリナの音はやさしく心地良いと思いました。心がはればれです。**ストレスがなくなりました**。などと好評でした。

「ほっと・ぼらんていあ」は、みなさんのボランティア活動に少しでも役立てていただけるように、2か月に1回程開催しています。**次回は、6月頃**に開催予定です。詳細は、ボランティア支援センターのHPや広報等で確認していただければ助かります。**ボランティアに興味のある方に限らずに、みなさんのご参加をお待ちしています。**